

大阪市浪速区の薬剤レビューに関する取組

地域での薬剤レビューの取組みの参考にしてね！



どんなメンバーで運営しているの？

浪速区薬剤師会・愛染橋病院・大阪医科薬科大学を中心に「浪速区薬剤レビュー委員会」（6名）を作って活動してしています

機関名	役割・内容
浪速区薬剤師会	地域薬局間の症例共有・薬剤レビュー推進研修の実施
愛染橋病院	症例検討会・医師との情報共有・多職種連携の実践
大阪医科薬科大学	研修プログラム監修、薬学的支援、データ分析助言

活動の目的は？

- 地域薬局における薬剤レビューの導入と定着
- 薬剤レビュー実施体制の構築と症例蓄積
- 薬剤師の質の担保を検証

を目的にしています



どんな活動をしているの？

薬剤レビューに基づいた症例検討会を開催しています

令和7年度の研修会実績

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | ○目的:薬剤レビューの定義を学び、薬剤師に求められる新たな役割を正しく理解する
○内容:講演「薬剤レビュー入門」、ワークショップなど |
| 第2回 | ○目的:先駆者から地域での実践術を学び、実際の症例をもとにした検討会で視点を養う
○内容:実症例に基づいたワークショップ、グループディスカッションなど |
| 第3回 | ○目的:糖尿病の模擬患者を通じ、臨床現場で使える的確な思考プロセスを徹底的に習得する
○内容:実症例に基づいたワークショップ、グループディスカッション、前回症例の経過フォローなど |
| 第4回 | ○目的:薬剤レビューの核心である「ASK」と「ASSESS」の作成を重点的に行う実践プログラム
○内容:実症例に基づいたワークショップ、グループディスカッション、前回症例の経過フォローなど |

／ 関係者の声 ／

地域の薬剤師が繋がり、互いの知見を補完し合うことで、一人では到達できなかった支援の「深み」に辿り着けます。断片化した情報を整理し、医師と患者さんに「クリアな視界」を提供するという私たちの役割を再確認できました。

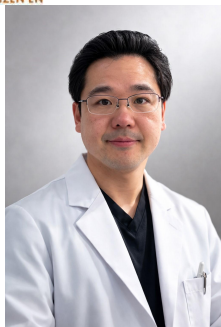
さらに、 Medikation Review (Medication Review、薬剤レビュー) は、より進んだ対人業務である、患者さんの人生を戦略的に導く「情報分析官 (アナリスト)」へと進化する鍵だと信じています。

今後は症例をさらに集積し実装フローを策定すると共に医師会と協力してMRの周知を図ります。地域の医薬連携を通じ、これが高度な医薬協働業務であることを実績で証明し、医療の質の向上を目指します。

(浪速区薬剤師会・森薬局 朴 ピナウル 氏)



薬剤レビューは、フリーアクセスの医療体制のもと、複数の医療機関で治療を受けている患者を横断的に把握し、処方最適化を図るうえで重要な手法の一つであると考えています。



病院内においては、医師と薬剤師が連携し、施設内での処方最適化に取り組んでいる例も見られます。しかし、その議論は単一施設内にとどまりがちであり、必ずしも患者の医療利用全体を反映できているとは限りません。その点、薬剤レビューはフリーアクセスという日本の医療特性を踏まえ、医療機関を越えた情報共有や処方の見直しを可能とする点に意義があり、より包括的な薬物療法の適正化に寄与することが期待できると思います。

(愛染橋病院 薬剤科長 柳瀬 昌樹 氏)

薬剤レビューの実践には、患者の薬物治療をゼロから組み立てる力が求められます。目の前の処方箋を都合よく解釈するのではなく患者さんにとってベストな薬物治療を、患者さんご自身や医療・介護・福祉チームと一緒に考える、時間や労力はかかりますがとてもやりがいのあるお仕事です。また、薬剤レビューの実践とフォローアップ、省察を繰り返すことによって、薬剤師自身の実力向上や地域における診療レベルの向上に結び付くのではないかと、私はそんなことを期待しています。



(大阪医科薬科大学 薬学部 臨床薬学教育研究センター
教授 矢野 良一 氏)